

きしゅう会計
これだけ

かわら版

2022
May
05

世界を駆け巡るコンサルタントが見つけた
生産性の高い会議の仕方



税理士法人きしゅう会計

〒644-0002 和歌山県御坊市藪208-4 TEL:0738-22-0463



事務所HP

www.kishu-kaikei.com



事務所通信

www.kishu-kaikei.com/page_003.html



生産性の高い会議の仕方

最近、さすがにやばいと思いきジョギングを再開しています。前と同じでオーディオブックを聞きながら。これはこれで時間の有効活用。体と頭を同時に健康にする時間の生産性を高める方法ですが、今回は別の話。

糸井重里氏プロデュースの「聞く、ほぼ日」というオーディオブックで紹介された濱口秀主さんの会議の仕方をご紹介します。



濱口さんは世界を飛び回る問題解決コンサルタント。その濱口さんが様々な国で実験して効果的な会議の方法を発見したというお話です。



コラボレーション（会議）は答を見つけるためにはとても重要。ではどのようなコラボレーションが優れているのか、特別仕様の積木を使って実験をされたそうで、チームでひとつすごい作品を作るという課題。積木は何百ピースもあり、色々な形を作れます。1チーム8人で8つのチームを



作り、限時間は60分。話しあった後、チームでひとつの作品を発表し、その8作品から全員で投票して最も優れている作品を選ぶといった内容。

キモはチーム毎にコラボレーションの方法を変えること。チーム1と2は完全にフリーで、60分間全員で話し合っただけで1つの作品を作ります。チーム7と8は時間を40分と20分に分けて前半40分はお互い何も話さずひたすら1人で考えて後半の20分間で個々のアイデアを共有して一つ作品を作ります。チーム3と4は一人で考える時間を20分にしてあとの40分で個々のアイデアを共有して一つの作品を作ります。



そしてチーム5と6は20分20分20分と3つに区切り、最初の20分は一人で考えてその20分の終わりにそれぞれのアイデアを一気に出して共有し、次の20分はまた一人で考えて、最後の20分で再度共有して一つの作品を作ります。つまりチーム1、2ほど話合う時間が長く、チーム7、8に向かうほど話合う時間が少なくなります。チーム5、6は2回共有する時間を持ちますが、一人で考える時間はチーム7、8とほとんど同じ40分間になります。結果、どのチームが最も優秀な作品を生み出せるのでしょうか？ 結論は何度やってもどこの国でもチーム5、6になるそうです。しかもダントツで頭ひとつ抜けるらしい。チーム1、2は完全フリーなので、一番コラボレーションしているように見えますが成果はもっとも低いそうです。完全フリーだと良いアイデアが出て議論に埋もれてしまうことになるらしい。理由はみんな自分の中で答えが見えてないのでとりあえず喋るからだと言います。チーム3-8は一人で考える時間に自分なりの答えとロジックを考えるから1、2と比べて優位なようです。そしてその中で5、6が優秀なのは、一人で考えるとどうしてもバイアス（先入観、固定観念）が出来てしまうのですが、2回他のメンバーのアイデアを共有することで、そのバイアスを壊せるでしょう。それがさらに進んだ発想に繋がる訳です。一人で考える時間とコラボの時間のハイブリット会議が生産性を高めるのです。



これだけかわら版の他の話は
こちらのQRコードから！
よもやまかわら版ブログ
<https://plaza.rakuten.co.jp/nakuken>



いつもありがとうございます！